

平成29年11月13日

平成29年度第8回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会

平成29年度第8回教育委員会定例会会議録

日時 平成29年11月13日（月）
14時50分～16時30分

場所 鹿屋市立吾平小学校

出席者

古川 教育長	寺園 教育次長
島津 委員	奥 総務福利課長
今村 委員	小屋敷 教職員課長
原之園 委員	菊地 義務教育課長
石丸 委員	前田 高校教育課長
堀江 委員	福田 義務教育課特別支援教育室長
	寺前 競技力向上対策室長
	岩越 教職員課人事管理監
	堀之内 教職員課人事管理監
	川原 生徒指導監
	宮田 大隅教育事務所長
	安楽 大隅教育事務所指導課長

議 決 事 項

件 名	提 案 理 由	審議の状況	採決の次第
<p>議案第1号 平成30年度教育 委員会の人 事異動方針 及び事務局 等人事異動 の重点につ いて</p>	<p>平成30年度人事異動を行うに当たり、教育委員会及び事務局等人事異動の重点を定めるものである。</p>	<p>特 記 事 項 な し</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第2号 平成30年度公立 学校人事異動 の重点につ いて</p>	<p>「県公立小・中学校教職員人事異動の標準」及び「公立高等学校教職員長期人事異動の標準」、「県特別支援学校教職員人事異動の標準」に即し、人事異動を行う際の基本的な観点として、平成30年度人事異動の重点を定めるものである。</p>	<p>特 記 事 項 な し</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第3号 平成29年度鹿 児島県優秀 教職員の表 彰の被表彰 者の決定に ついて</p>	<p>平成29年度鹿児島県優秀教職員の表彰の被表彰者を決定しようとするものである。</p>	<p>特 記 事 項 な し</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第4号 平成30年度県 立特別支援 学校幼稚部 幼児及び高 等部生徒の 募集定員の 策定につ いて</p>	<p>平成30年度県立特別支援学校幼稚部幼児及び高等部生徒の募集定員を定めようとするものである。</p>	<p>特 記 事 項 な し</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第5号 職員の懲戒 処分につ いて</p>	<p>学校職員の非違行為について、教育公務員としての責任を問おうとするものである。</p>	<p>特 記 事 項 な し</p>	<p>決 定</p>

会 議 要 旨

1 開会

2 会議の公開等について

教育長報告第1号，議案第3号，議案第5号，その他（1）及びその他（2）については，非公開で審議する旨，教育長から発議があり，全会一致で議決された。

3 平成29年度第7回教育委員会定例会の会議録の承認

承 認

4 議案

議案第1号 平成30年度教育委員会の人事異動方針及び教育委員会事務局等人事異動の重点について

議案第2号 平成30年度公立学校人事異動の重点について

（総務福利課長）平成30年度人事異動を行うに当たり，教育委員会の人事異動方針及び教育委員会事務局等人事異動の重点を定めるものである。

（教職員課長） 「公立小・中学校教職員人事異動の標準」及び「公立高等学校教職員長期人事異動の標準」，「特別支援学校教職員人事異動の標準」に即し，人事異動を行う際の基本的な観点として，平成30年度人事異動の重点を定めるものである。

（島津委員） 議案第1号の人事異動の重点については，昨年度と変わっていないということによいか。

（総務福利課長） 基本的には，昨年度と変わっていない。

（島津委員） 今年強化する項目は全くなかったということか。

（総務福利課長） 方針については，人事異動を発表する際の考え方として整理させていただいている。大きな流れということで，毎年変わるべきものではないと考えている。

（今村委員） 議案第2号の公立学校人事異動の重点において，交流研修を積極的に図ることが掲げられている。義務教育学校については，坊津小学校を訪問した頃からすると，鹿児島県では非常に増えてきている，若しくは今後更に増えるのかなと思う。それに交流研修が対応できる方向で進んでいるのか，教えていただきたい。

（教職員課長） 小学校と中学校の交流研修については，中学校では小学校の教

諭が、小学校では中学校の教諭が研修することにより、小学校と中学校の接続に十分に配慮した指導ができることを目的としている。

義務教育学校においても、小学校と中学校両方の状況を知っている者が指導する方が望ましいという観点もあり、異なる校種の経験を念頭に、このような制度を設けている。

(今村委員) 義務教育学校の設置と先生の希望数とのバランスは上手く合っているのか。

(教職員課長) 交流研修については、希望を聞いた上で配置しており、希望数と予想される義務教育学校の数が一致しているわけではないが、交流研修については、小学校から中学校へ上がる段階のいわゆる中1ギャップに対応できるよう実施しているところである。

(今村委員) 市町村が希望でどんどん義務教育学校を増やすと、県の計画とギャップが出てくるのではないか。

(教職員課長) 今後市町村等とも連携しながら、交流研修の数については検討していきたい。

(教育長) 義務教育学校の設立については、ある程度の連携を持って準備されていくので、小中一貫校の段階から我々にも情報は入ってくる。そのスケジュールの進捗に合わせて、研修について調整しているので、将来的にアンバランスとならないようにしていきたいと考えている。

(島津委員) 交流研修において、小学校の教諭が中学校での研修を、中学校の教諭が小学校での研修をする場合、研修期間中、教諭はどのような立場なのか。研修生であるのか、あるいは教諭として活動するものなのか。

(教職員課長) 交流研修については、小学校と中学校、中学校と高等学校それぞれあり、それぞれ行った学校で教諭として相当な期間の年数を勤務することになる。一教諭として、それぞれの校種で頑張っていたくものとしている。

(原之園委員) 高等学校では、特に離島との交流を積極的に進めている。この重点では離島との交流を積極的に進める教科や科目を示していないが、もう2回目を勧めなくてもうまくいっているということか。

(教職員課長) これはあくまでも人事異動の重点であり、高等学校では何回以上というように示してはいない。今後、人事異動を進める中で、学校長等に説明していきたいと考えている。

(石丸委員) 特別支援学級の対象者が増えているイメージがある。特別支援学校との交流研修について、特別支援学校自体のニーズや、どれぐらいの割合で進んでいるのか教えていただきたい。

(教職員課長) 特別支援学校との交流研修については、小学校の教諭で特別支援教育のノウハウを学びたいと意欲を持っている方がおられる。一方で、特別支援学校においては定数との関係や学級の増減との兼ね合いもある。

このように小中学校の教諭が特別支援教育を学びたいニーズを基にしながら、毎年度研修の数を少しずつ増やしていく傾向である。具体的に言うと、小学校から特別支援学校へ10人程度は交流研修で受け入れられる状況である。

(石丸委員) 期間は長いのか。学校1校に何年と決まっているのか。

(教職員課長) 基本3年で交流研修を終了させている。

(教育長) 異議がないようなので、議案第1号及び議案第2号は原案のとおり議決する。

議案第4号 平成30年度県立特別支援学校幼稚部幼児及び高等部生徒の募集定員の策定について

(特別支援教育室長) 平成30年度県立特別支援学校幼稚部幼児及び高等部生徒募集定員を定めようとするものである。

(原之園委員) 募集定員の資料に、「実情に応じ、定員を超えて入学を許可することができるものとする。」とある。鹿児島高等特別支援学校の募集定員は32人であるが、昨年度も倍率が高かったのではないか。

(特別支援教育室長) 昨年度の倍率は、1.94倍であった。

(原之園委員) 32人を超えて受け入れることはできるのか。

(特別支援教育室長) 鹿児島高等特別支援学校においては、定員が32人となっており、定員を超えて受け入れることはしない。

(原之園委員) 幼稚部や他の特別支援学校のように、「実情に応じ、定員を超えて入学を許可することができるものとする」という欄外の但し書きは適用されないのか。

(特別支援教育室長) 鹿児島高等特別支援学校については、適用されない。鹿児島高等特別支援学校以外の学校に適用される。

(教育長) 異議がないようなので、議案第4号は原案のとおり議決する。

5 その他

(3) 平成28年度児童生徒の問題行動・不登校等（鹿児島県公立学校）の概要について

(生徒指導監) 平成28年度児童生徒のいじめ、不登校、暴力行為、高等学校中途退学者数等及び自殺の状況について説明

(島津委員) 不登校の状況で、中学校と高等学校は率的に見ると全国平均よりも高いのが気になる。これに対する見解等はないか。

(生徒指導監) 御指摘のとおり、資料の表には、括弧書きで不登校児童生徒数の在籍に占める割合を記載している。小学校はその割合が若干下回っているが、中学校と高等学校はその割合が上回っている。

県教育委員会としては、魅力ある学校づくりの研究指定をしたり、チーム学校として学校内だけでなく、校外の専門家等と一緒にチームをつくって課題等の改善に努めたりしているが、複雑な理由もあるので、簡単に解消できないこともあるのが現状である。

この中において高等学校では、ここ数年、率が減少傾向である。そのことを学校現場に対して、現在の取組により良い方向に向かっているのではないかと前向きに受け取れるメッセージとして伝えている。今後とも各学校と教育委員会一体となった取組を続けていきたいと考えているところである。

(島津委員) 午前中に県立垂水高校を訪問したところ、中学校で不登校だった生徒が高校で中心的な役割を果たしている話を伺った。是非、そのような方向に向けて解消していただきたい。

(4) 鹿児島県産業教育審議会の報告について

(高校教育課長) 鹿児島県産業教育審議会の協議事項、協議での委員の主な意見及び今後の取組について説明

(5) 第72回国民体育大会（愛顔つなぐえひめ国体）について

(競技力向上対策室長) 第72回国民体育大会（愛顔つなぐえひめ国体）における本県選手団の成績等について説明

(島津委員) ここ数年、国体の結果について説明していただいているが、なかなか順位が上がらず、歯痒い思いをしている。あと3年でかごしま国体が開催されるが、今後の取組において、重点競技として強化するような方向付けがあれば、教えていただきたい。

(競技力向上対策室長) えひめ国体以降、各競技団体とヒアリングを密にしており、どの競技・種目・種別で、何点を目標にするのかなど、一つ一つ洗い出しているところである。その実現に向けて、今後具体的な対策を練っていく段階である。

(教育長) 重点的な競技は何があるか。

(競技力向上対策室長) 国体競技で一番大きい得点が8倍の種目であるサッカーやホッケーなどである。九州ブロックで惜しくも負けてしまったり、もう一つ力が足りずに得点を取ることができなかった種目に対しては、少々のトラブルや選手の故障があってもしっかりと勝ち抜けるだけの力を付けさせたい。ホッケーやバレーボール、ラグビーフットボール、ソフトボールなどの戦力をまずはしっかりと増強していきたいと考えている。

併せて、対戦型の種目は対戦相手との組み合わせで勝ち負けが左右することから、対戦型でなく、力があればほぼ順位に反映する種目であるウエイトリフティング、カヌー競技などでしっかり力を付けて点数を取りこぼさないよう進めていきたいと考えている。

(教育長) 来年度以降の選手の強化等については、報告しながら進めていきたい。競技団体としっかり戦力分析を行い、この競技は何点を取る、優勝をする、優勝しなくても入賞をするなど具体的な目標を持って進めていただきたい。

(6) 大隅地区の教育概況について

(大隅教育事務所長) 大隅地区内の学校の概要、教育行政の概要、特色ある教育活動、文化財保護及び主な受賞歴等について説明

(島津委員) どうしても人口減少が問題となってくるが、今後の子供の数の推移について把握しているのか。児童生徒は現状で18,956人だが、小学1年生が今後どのように推移するのか教えていただきたい。
また、大隅終末ベーシックリーフレットの「終末」はどのような意味か。

(大隅教育事務所長) 児童数の推移については、全体的には減少傾向であるが、鹿屋市の都市部の学校では増加する学校もある。

(教育長) ここ10年程でどのくらい減少しているのか。

(高校教育課長) 高校教育課で行っている調査によると、大隅地区全体については、今年の小学校1年生は今年3月の中学校卒業生と比べると42人増である。平成30年で27人増となり、その後は40から50人程減っていくが、その後また増えていく。

(教育長) 増加の要因分析はされていると思うが、引き続き分析していただきたい。

(大隅教育事務所長) 大隅終末ベーシックリーフレットについては、この「終末」の時間で何を学ばせるのか、授業のまとめになる部分が何なのかを

しっかりと教師に考えていただいて、それを基に授業をつくっていく。つまり、どのようなまとめをするのか、教えるべきものは何かということから、「大隅終末ベーシック」と名付けている。

(教育長) 「導入」「展開」「終末」は専門用語としてあるのか。

(大隅教育事務所長) 専門用語としてある。

(原之園委員) 1時間のまとめをして次の時間につなぐという意味であると思う。

(島津委員) 個人的には、「終末」はあまり良い言葉ではないように感じる。

(教育長) 参考意見として言うと、一般常識的に悪いイメージがあるので、言い換えができればよいかもしれない。

6 教育長報告
報告第1号 平成29年度県立学校職員の能力評価及び前期業績評価について
(非公開)

7 議案
議案第3号 平成29年度鹿児島県優秀教職員表彰の被表彰者の決定について
(非公開)

8 その他
(1) 平成29年度文部科学大臣優秀教職員表彰の被表彰候補者の推薦について
(非公開)

(2) 「学校の業務改善」の推進に向けたポスター原画・標語について
(非公開)

9 議案
議案第5号 職員の懲戒処分について
(非公開)

10 閉会